

認知機能検査が心配



高齢者が一番なりたくない病気は、認知症だ。みんな、ひそかに心配している。来年の4月には75歳になるというK子さんもそうだ。「センス、私、心配で眠れない。免許がなくなったら、夫の病院の送り迎えができなくなる」と深刻だ。

どうやら、運転免許の更新時に行われる認知機能検査が心配のようだ。検査を受ければ不合格は間違いない。免許も取り消されると決め込んでいる。交通事故などを起こした

高齢者の運転免許

ことはなく、違反切符だって切られたことがないというのに。

「あなたが認知症なら、ワッシーも同じだ」と言ってもダメだ。K子さんは、MRI(磁気共鳴画像装置)で調べても、脳は年齢よりもずっと若い。だが、もの忘れのテストの数では良くない。テストされるというだけでパニックになるからである。

実は、2009(平成21)年6月に道路交通法が改正され、75歳以上の高齢運転者の免許更新時に認知機

能検査が行われるようになった。約30%のひとに、テストの上では、なんらかの異常が見つかるという。チヨーあがり性のK子さんなら、約2%という稀な「記憶力・判断力が低くなっている」第1分類に入るかもしれない。となると、ちょっと面倒なことになる。

道路交通法が、今年の6月にまた改正された。第1分類のひとは全員

第1分類なら診断義務

に医者診断が義務付けられ、医者が認知症と診断したら免許取り消しになるのだ。来年の3月12日から施行される。これは医者にとっても辛い仕事だ。免許がなくなったら生活できなくなるひとだっている。つい、患者さんに甘い判断を下し、診断を故意に曲げれば医者の手が後ろにまわる。だが、K子さんの場合は大丈夫だ。「あなたには、堂々と、認知症ではないという診断書を書けますよ」と話したら、やっと笑顔が戻った。

(石黒修三||いしぐろクリニック・脳神経外科専門医、金沢市在住)